

ペルーの児童養護施設に関する研究動向と自立支援 の課題

岩瀬, さくら
九州大学大学院人間環境学府

小澤, 永治
九州大学大学院人間環境学研究院

<https://doi.org/10.15017/6796246>

出版情報：九州大学総合臨床心理研究. 14, pp.85-91, 2023-03-20. Center for Clinical Psychology and Human Development, Kyushu University

バージョン：

権利関係：



ペルーの児童養護施設に関する研究動向と自立支援の課題

岩瀬さくら 九州大学大学院人間環境学府 / 小澤永治 九州大学大学院人間環境学研究院

要約

本研究では、ペルーの児童養護施設に関する研究動向の整理を行い、その特徴を明らかにするとともに、ペルーにおける児童養護施設退所後の自立支援の課題を検討することを目的として、スコーピングレビューを参考にした文献選択を実施した。その後、採用された73件の論文を対象に文献検討を行った結果、主要なテーマは「施設入所児童の心理社会的特徴の理解」、「施設内外の支援者の機能と役割」、「施設退所後を見据えた支援」、「家族支援とコミュニティアプローチ」、「社会資源の利用」、「施設の建築とデザイン」、「施設職員の意識及び実態の把握」の7つにまとめることができた。その内容からは、現場の施設職員が退所後を見据えた様々な関わりを行っていることが示された。一方で、ペルーにおける自立支援の課題には、主に、職業訓練プログラムや国家奨学金の有効利用と利用者のモチベーション維持の困難さ、施設退所者の実態に関する情報の不足、施設退所後のサポートの希薄さがあることが示唆された。

キーワード：児童養護施設、アフターケア、ペルー

問題と目的

1989年の国連総会で採択された児童の権利に関する条約は、児童は「その人格の完全なかつ調和のとれた発達のため、家庭環境の下で幸福、愛情及び理解のある雰囲気の中で成長すべき」であるとしている（外務省, 2021）。しかし、世界各国における要保護児童の生活は、情勢や経済状況、価値観に左右され（Kirk et al., 2017）、2015年時点で、世界では推定537万人の子どもたちが児童養護施設等の大人数制の居住型ケア環境に在籍している（Desmond et al., 2020）。

ラテンアメリカ及びカリブ海諸国では、施設養護が伝統的かつ主流な児童の保護手段であり、災害や紛争、HIV、貧困や社会的排除、虐待等を背景に、2013年には、要保護児童が約840万人存在し、23万～37.5万人が施設養護を受けているとされる（Kirk et al., 2017）。宇佐見（2020）は、同諸国の社会福祉政策について、家族重視の傾向、慈善団体による社会扶助の補完の歴史、近年の急速な福祉政策の拡充、経済・社会の発展度、政治体制の差異などから、大きな域内格差と質的・量的な遅れがあることを指摘している。

本研究では、同諸国の中でもペルーの児童養護施設を取りあげ論じたい。ペルーは、20世紀後半の軍事政権時代後に躍進的な経済成長を遂げたものの、地理的条件によるインフラ整備や貧困率、教育アクセスの格差といった課題をもつとされる（外務省, 2022）。包括的な福祉政策の拡大の一方で、インフォーマルセクターの多さと、社会福祉政策予算の低さにより福祉制度の普遍化が進んでいないことが課題となっている（宇佐見, 2020）。ペルーの施設養護下にある児童数は2013年時点で1.9万人と、同諸国でもハイチ、ブラジル、メキシコに次いで多い（Kirk et al., 2017）。2016年には、社会的養護全般を定めた立法令（第1297号）が制定（gop.pe, 2016）され、住居型ケアセンター（CAR）の整備も進んでいるが、路上生活を行う児童も存在し（UNICEF, 2021）、保護を要する全ての児童が社会的養護下にあるとは言い難い。加えて、ペルーにおける児童養護施設退所者に対するフォローアップの欠如も指摘されており、保護制度から離脱する若者の正確な人数も出ていないとの指摘がある（Mamani-Condori, 2021）。このように、児童保護や社会的養護全般の公的制度が十分に整備されていない状況にあるペルーの児童養護施設では、民間団体や慈善団体等の外部機関が施設の

ケアに関与し、多様性のある施設養護が行われていることに特徴がある（Aznarán-Barrantes, & Casimiro-Avila, 2021; Guerrero-Ramírez, 2018）。そのため、ペルーの児童養護施設およびその退所者に関する研究からは、日本や欧米諸国の知見からでは得られなかった、子どもに対する施設養護における新たな強みと課題を見いだすことが期待される。しかし、ペルーの大学で作成された学位論文の多くはスペイン語で書かれている上、資料の多くは現地の大学を訪問して特定したとの報告（Ames et al., 2018）もあり、ペルー国外やスペイン語圏以外の国では入手されづらく不明な点が多い状況にある。

そこで、本研究では、スペイン語文献も含めたペルーの児童養護施設に関する研究動向の整理を行い、その特徴を明らかにするとともに、ペルーにおける児童養護施設退所後の自立支援の課題を検討することを目的とする。

方法

本研究では、幅広い文献を概観することで、現在行われている研究を網羅的に調査し、研究が行われていない範囲を明らかにすることを目的としたスコーピングレビュー（沖田他, 2021; Peters et al., 2017）を参考にした文献収集を行った。

1. キーワードの選択

代替的養護に関する用語確認と言語間調整のため、「児童の代替的養護に関する指針」の日本語版（外務省訳）（国連, 2009）・英語版（United Nations, 2009）・スペイン語版（Naciones Unidas, 2010）を照合しながら、先行研究等を参考にキーワードの検討を行った（表1）。

表1 文献検索のキーワード

キーワード	代替的養護	施設養護	アフターケアに対する支援	ペルー
英語	alternative care (of children)	• residential care • institutional care	• support for aftercare • leaving care	Peru
スペイン語	alternativas de cuidado (de los niños)	acogimiento residencial	asistencia para la reinserción (social)	Perú
(追加分)	• niños y/o adolescentes albergados • niños y/o adolescentes institucionalizados		(施設化（保護）された児童及び青年)	

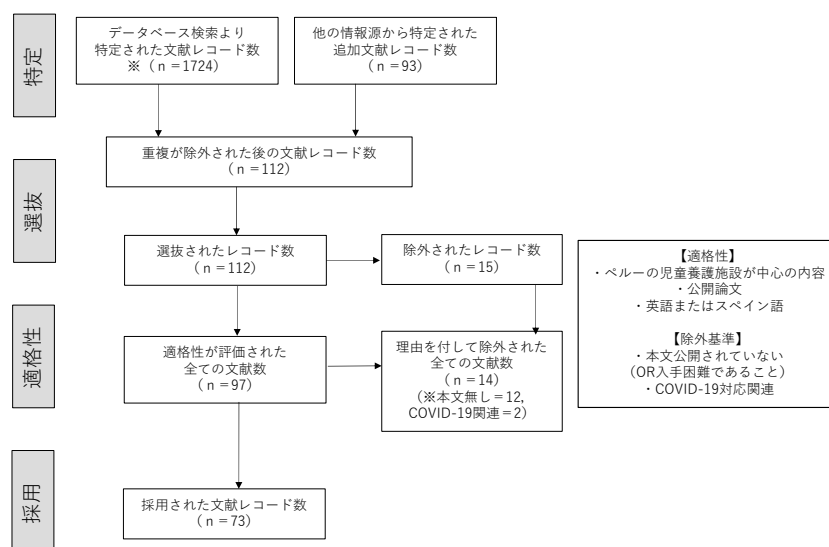


図1 本研究における PRISMA フローチャート

次に、スペイン語については、現地大学の法学部研究員兼 DEMNA 職員 1 名に、追加検討され得るキーワードについて助言を得つつ、適切性と倫理性について確認を行った。その上で、キーワードに、「施設」には“instituciones”を加え、施設化（保護）された青年として，“adolescentes albergados”，“adolescentes institucionalizados”を、施設化（保護）された児童として，“niños albergados”，“niños institucionalizados”を追加した。

2. 文献選択

(1) 対象文献と適格性及び除外基準

本研究では、2022年6月末時点で検索された文献を対象とし、「適格性」は、①ペルーの児童養護施設を中心とした内容であること、②出版された学術論文、または公的機関によって監修された文献であること、③英語またはスペイン語で書かれていることとした。併せて、除外基準は、①本文が入手できない研究、②COVID-19対応に関する内容の研究とした。

(2) 文献選択の手順

PRISMA フローチャート（沖田ら、2021）を参考に、「世界の文献」と「Google Scholar」を用いて、上述した選択キーワードで、言語毎に組み合わせ検索を行った。また、先行研究の引用文献も情報ソースとして用いた。本研究では、計1817件の文献が検索され、重複した文献の除外、タイトルと要旨によるスクリーニング、内容の確認によって選抜された文献112件のうち、「適格性」が確認できた文献は97件であった。その中で除外基準に該当しなかった文献73件を選択文献として採用した（図1）。

結果

1. ペルーの児童養護施設に関する研究の概要

(1) 言語

対象論文の73件中、70件がスペイン語、2件が英語、1件はスペイン語・英語で書かれていた。一部、英語要約が見られないものも存在した。

(2) 刊行年と研究分野

1994年から2009年に3件、2010年から2015年に12件、それ以降は、2016年に4件、2017年に7件、2018年に10件、2019年に

15件、2020年に8件、2021年に11件、2022年に3件の論文が刊行されていた。論文執筆者の主な研究分野は、心理学24件、医療・社会福祉学21件、社会公共政策・法学8件、建築・デザイン学及びICT分野12件、社会学・その他8件であった。集計結果は表2に示す通りであった。

(3) 研究テーマ

研究課題とされている主要なテーマは、「施設入所児童の心理社会的特徴の理解」（28件）、「施設内外の支援者の機能と役割」（16件）、「施設退所後を見据えた支援」（5件）、「家族支援とコミュニティアプローチ」（7件）、「社会資源の利用」（4件）、「施設の建築とデザイン」（9件）、「施設職員の意識及び実態の把握」（4件）の7点にまとめることができると考えられた（表3）。一方、「アフターケアに対する支援」をキーワード入れた組み合わせ検索では、該当文献が検索されなかった。

2. ペルーの児童養護施設に関する研究テーマの動向

上述したペルーの児童養護施設に関する研究で検討されている主要な7つのテーマについて、表4にまとめた。これらのテーマについて概要を述べたい。

(1) 施設入所児童の心理社会的特徴の理解

児童養護施設に入所している児童の特徴に関する研究が最も多く実施されていた。特に心理学的観点から、入所児童が抱え

表2 レビュー対象文献の分野と年代

年代	心理学			医療 福祉	社会公共 法学	建築 デザイン ICT	社会学 その他	合計
	基礎 心理学	臨床 心理学	その他					
1994-2010		2	1				1	4
2011-2015	1	1	1	7			1	11
2016	1	1		2				4
2017	2				2	1	2	7
2018	3		1	3	3			10
2019	2		1	6	2	2	2	15
2020	2		1	1		2	2	8
2021	2		1	2	1	5		11
2022	1					2		3
合計	14	4	6	21	8	12	8	73

表3 レビュー対象文献の分野とテーマ

テーマ	分野	心理学			医療 福祉	公共政策 法学	建築 デザイン ICT	社会学 その他	合計
		基礎 心理学	臨床 心理学	その他					
1 施設入所児童の心理社会的特徴の理解		10	3	3	9	1		2	28
2 施設内外の支援者の機能と役割		4		3	6	1		2	16
3 施設退所後を見据えた支援					2	3			5
4 家族支援とコミュニティアプローチ					3		2	2	7
5 社会資源の利用			1				1	2	4
6 施設の建築とデザイン							9		9
7 施設職員の意識及び実態の把握					1	3			4
合計		14	4	6	21	8	12	8	73

表4 レビュー対象論文の主要テーマと主な論点

テーマ (論文数)	各テーマにおける主な論点
1 施設入所児童の心理社会的特徴の理解 (28)	①逆境的小児期体験 (Adverse Childhood Experiences : ACEs) による施設入所児童の特性と傾向 (攻撃的行動, いじめ, 身体的・精神的状況, ステイグマ等との関連) ②自己や家族に対する概念 (自尊感情や幸福感, 家族への帰属意識), 本来の特性, レジリエンス ③職員への信頼や施設の友人, 家族へ抱く感情 ④施設内生活による規範意識の形成と適切な行動の強化 ⑤時間的展望
2 施設内外の支援者の機能と役割 (16)	①児童との良好な人間関係構築と肯定的な相互作用 (基本的な信頼の獲得, 思春期・青年期のアタッチメント形成, 職員のコミュニケーションスキルと人間性) ②適応的体験の積み重ねと場づくり (施設・学校生活における環境整備, 学校関係者との連携, 学習意欲, 級友との関係性) ③専門家の介入とプロジェクト開催 ④職員の人間関係が児童に及ぼす影響
3 施設退所後を見据えた支援 (5)	①職業訓練プログラム (児童の意欲関心の喚起と継続支援, プログラム内容検討, 就業サポートと継続のフォロー, 企業との連携の検討) ②国家奨学金プロジェクト (Beca 18) (利用意欲の動機づけ, 逆境的小児期体験 (ACEs) の精神的ケアの継続, 大学生活継続のモチベーション維持) ③フォスターケアへの移行
4 家族支援とコミュニティアプローチ (7)	①家族支援 (保護者の被虐待歴, アルコール依存, 離別, 反規範的行動) ②コミュニティアプローチと施設に対する知識普及・イメージアップ戦略 (ソーシャルメディアの活用と企業連携)
5 社会資源の利用 (4)	①ICT 学習の機会と ICT 利用による住民への施設紹介と知識の普及 ②ソーシャルサービスの効果と施設入所青年の利用可能認識 ③国際ボランティアの態度が児童等に与える影響
6 施設の建築とデザイン (9)	①CAR の不足と建設の必要性 (小規模多機能施設)・現状調査 ②ケア空間としての施設設備 (快適性と自然との融合性・レクリエーション空間等) ③視覚的效果による住民への好印象 ④統合された空間 (生活の場・社会適応・職業訓練プログラムを含む)
7 施設職員の意識及び実態の把握 (4)	①施設職員の法規知識と養育スキル (専門職配置の必要性) ②養育環境改善・施設整備・運営体制改善・国による包括的プログラム検討の必要性 ③入所措置理由調査

る困難が多く指摘されている。家族の情動特性や実際に受けた虐待, 無関心的な関わりの影響によって, 入所児童は衝動的で攻撃的な行動を行いやすく, また, 人を避ける傾向にあるとされる (Yshikawa-Merma, 2018)。更に, 子ども同士の関係の中でいじめる側やいじめられる側になりやすい特徴 (Huamani-Bendezu, 2015), 乳幼児期の身体的発達遅延 (Aylas-Escurrea et al, 2018), うつ状態 (Hidago-Soria, 2017) を抱えているとされる。他にも, 各発達段階において施設生活による社会との隔絶感や家族からの孤立感を抱きやすく (Chire-Flores & Cruz-Cruz, 2019) 学校でのからかいの受けやすさによる学習意欲低下も生

じやすいとされる (Nina-Ramos, 2015)。

一方で, 入所児童の抱える困難は特異的なものではなく, 同年代の青年と同程度の, レジリエンス・自信・忍耐力を持つとする研究 (Ramirez-Castillo, 2022) や, 素行症を起こし得るネガティブな行動は入所児童に限ったことではないとする研究 (Zapata-Pratto, 2015) も見られた。また, Zamalloa-Cusihuaman (2019) は, 施設職員の児童との日々の関わりを高く評価すべきであると述べている。児童養護施設入所後の児童の変化については, 自らの変化や学習能力向上による学校適応を肯定的に受け止めるようになること (Simbrón-Mendoza, 2019), 施設職員

へ助けを求めることを学ぶようになること (Villanueva-Alvarado, 2017), 施設での人間関係の満足度の高さから, 家族への過度に依存的な意識を持たず, 家庭の反社会的行動を拒否的に捉え規範意識を示すようになること (Huamani-Juño & Untiveros-Lazo, 2010) が報告されている。

その他, Carcelén-Velarde & Martínez (2008) は時間的展望に関する調査から, 人間の基本的欲求を満たす施設のサポートが, 児童が主体的に次の目標構築を行いながら, 対人関係への欲求 (承認欲求) や, 自己実現の欲求を重視できるという効果をもたらし得ること, この主体性こそが, 社会に出るための児童の学習意欲向上や生活習慣改善にもつながり得ると述べている。

(2) 施設内外の支援者の機能と役割

児童養護施設職員に関する研究からは, 職員が持つ重要な機能として児童の心理的な自立をサポートできるよう所属の欲求を満たすこと, 特に青年期には, オープンで積極的なコミュニケーションで信頼関係を保ちつつ, 本人の価値観の形成をサポートすること (Gamarra-Quiroz, 2020) が重視されている。

また, 思春期・青年期は保護者以外を含む他者との安定的な関係の構築を基盤に, 自尊心や自我, 精神的自立や価値観の形成等に関わる時期であり, この時期に家族機能を代替し得る職員の関わりが重要であると指摘されている (Rebaza-Díaz, 2020)。一方, Ortúzar et al. (2021) は, 思春期・青年期には, 学校の満足度が施設の満足度よりも主観的幸福に強い影響を与えするという調査結果から, 施設職員が「家庭の親」として施設外部の学校関係者ともメゾシステムの部分で協働する重要性を指摘している。

更に, 施設職員の適性に関して, Alvarado-Espinoza & Espinoza-Mallque (2013) は, 相手を理解しようとする共感とは才能ではなく望めば誰でも可能と述べ, ある施設では殆どの職員が寛容さ・楽観性・褒め言葉や, 基本的な社会性, 高度な社会的スキルを身に付けていたことを報告している。同時に, 栄養士や心理士, 社会福祉士等が職員への助言を行うなど, チームで統合的な成長をサポートできるような体制構築 (Gonzalez-Díaz, 2014) の必要性が強調されている。

(3) 施設退所後を見据えた支援

就業サポートについて, 入所児童を対象とした職業訓練プログラムに関する研究が報告されている。Guerrero-Ramírez (2018) は, 児童のスキルや能力開発は, 安定した雇用による児童の自立のみならず, 家族への貢献にもなると述べている。一方, プログラムの課題として, 児童の興味関心に沿ったプログラム内容の開発, 受講継続の意欲や根気を支持する要素, 就業率の低さと短期離職率の高さの改善策等の検討が必要であると指摘されている (Chilmaza-Morales & Coronado-Gamarra, 2019)。

高等教育及び大学進学について, Espinoza-Oscanoa (2018) は, ペルーの国家奨学金プログラム (Beca18) の利用者および利用予定者を対象とした調査から, 大学選択時における施設と他校との基礎教育の格差や, 教育アクセスの問題による学習意欲の喚起や維持の困難さ, 退所後の精神的な配慮やケアの不足, 大学側のプログラム内容の配慮不足を報告しており, 必要な支援として, 施設内での学習支援体制強化や教育アクセス改善, 退所後の精神的ケアの継続や人的サポート等を挙げている。

施設退所後に里親養育へ移行する児童について, Suárez-Rodas (2015) は, 児童養護施設入所前の逆境的小児期体験

(ACEs) による児童の態度や行動が影響を及ぼしており, 施設での児童の安定を図ることが里親養育の安定において重要となることを指摘している。

(4) 家族支援とコミュニティアプローチ

児童養護施設に入所する背景となった家族の問題の理解や, 家族やコミュニティを対象とした研究もみられる。Córdor-Vilcapoma & Sosa-Arroyo (2017) は, 入所児童の家庭の特徴に, 家族内暴力, 両親の不仲と別離や過度のアルコール摂取等の保護者の不安定さがあることを報告している。Henriquez-Infantes (2013) は, 保護者もネグレクトや家庭内暴力, 親のアルコール依存や反社会的行動等の被害者であった可能性が高く, 虐待の連鎖につながっている可能性を指摘し, その連鎖を断ち切るための総合的な家族支援プログラムが必要であると述べている。

また, 施設とコミュニティとの関係強化や評判を意識した, ソーシャルネットワーク活用の検討 (Alpaca-Rodriguez & Mamani-Porras, 2017) や, 民間企業との協働企画による施設の現状報告や知識普及を兼ねた広報活動による資金調達の推進 (Mainza-Herrera & Zapata-Namuche, 2019) に関する研究も実施されている。

(5) 社会資源の利用

児童養護施設の運営に関する研究からは, 慈善団体からの支援が大きく貢献しているとされる (Rios-Sotil, 2020)。一方で, Shisco-Calvo (2014) は, 社会的支援に関する青年の認識調査で, 入所青年は家庭で暮らす児童と比べて, 公共サービス面での優位差は認めないものの, 学校や地域など施設外からのサポートに差があり, その差には兄弟・親戚の有無, 施設の入所理由等が影響しているという結果から, 適切なアフターケアのためにはより多くの社会資源が児童養護施設に関与することが必要であると述べている。また Tejada-Tavera (2022) は, ICT 技術に関する市民プログラム受講など, ICT 技術の認知と学び, 活用機会の提供は, 現代の基本的な人権にあたること, 更に, 入所児童が自己や施設の紹介をすることは地域住民の施設理解にもつながるとしている。

(6) 施設の建築とデザイン

児童養護施設の設置数に関しては, 要保護児童数に対する絶対数が不足しているとの指摘がある (Oviedo-Ortiz & Vargas-Chunga, 2021)。立法令 (第1297号) の通り, 大人数施設を最小限にすべき (gop.pe, 2016) としつつ, 建築・デザイン学的視点をもって, インフラや物質的側面から, 児童の生活改善や社会との相互交流の機会をサポートできる施設, 青少年のコミュニティへの統合を支援する建築デザイン等の視覚的要素も含めた都市開発 (Condori-Olivera, 2017) が課題とされている。その他にも, 入所児童の包括的な成長発達のための遊びの空間に配慮した施設環境の開発 (Landivar-Yacila & Rivera-Ticona, 2021), 施設自体をケア機能と捉え, 児童の快適さが重視された自然と調和した施設環境や, 目を惹くようなデザインで地域における施設イメージの革新 (Silva-Herrera, 2020) が提案されていた。

(7) 施設職員の意識及び実態の把握

Madera-Flórez (2021) は, 施設によっては, 職員の法律や政策への無関心や知識不足があり, レクリエーションや自由時間の確保, 施設職員からの虐待事例報告, 家族復帰支援への努力

不足等の問題があると指摘し、心理職などの専門職を十分に配置すべきであると提言している。更に、施設の運営資金獲得の困難性や、定員と面積及び職員配置数の法的規定が遵守されていない施設の存在 (Obregón-Alejos, 2019) も指摘され、Herrera-Campoblanco (2018) は各州で施設運営体制に差が存在することに言及し、国の包括的な介入の必要性を訴えている。

考察

1. ペルーの児童養護施設に関する研究動向とその特徴

児童養護施設に関する研究において、心理学分野における論文数は1994年から年間1～3件程度で推移しており、研究テーマは施設児童や保護者及び施設職員の理解、施設内外の支援者との関係が約95%を占めた。その中で、様々なリスク下でも発達を続ける児童の内的資源に目を向ける視点 (Morelato, 2011) が不足していると考えられる。また、その他の分野における研究は、年代別論文数やテーマにばらつきがあるものの、いずれの分野における研究でも、他者との良好な人間関係と肯定的な相互作用が児童の基本的な信頼の獲得や社会適応や学校適応を促し、学習意欲を高め退所後の経過の良好さに影響するものとして着目されていた。同時に、施設職員の質やそれを確保するための就労体制や教育体制、心理職やソーシャルワーカー等の専門職の必要性が指摘されていた。一方、これらの研究の背景には、法定年齢になれば施設を出なければならず、退所後の支援が乏しいというペルーのアフターケア体制の課題がある中で導き出されたテーマ及び結論であるとも考えられた。

2. ペルーにおける児童養護施設退所後の自立支援の課題

本研究で検討した文献には、施設職員が児童の退所後を見据え、肯定的な人間関係を築くことで、児童が心理的な自立に向かえるよう関わっていることが記されていた。また、入所中に適切な社会規範と学習意欲の定着を図り、家族や地域のトラブルに巻き込まれないこと、そして家族問題の連鎖を止めることが、施設退所後の予後に肯定的な影響を与えると捉えられていることが示された。一方、児童が施設で習得した適切な認知や行動を、退所後も維持・活用できる支援体制については検討されておらず、入所時のケアと退所後の支援についてどのように継続した体制を提供できるかが課題になると考えられる。

また、職業訓練プログラムや奨学金制度は存在するが、それらを利用するための児童の興味関心、基礎学力や施設の学習支援体制の問題、退所後の教育アクセスの悪さ、特別な配慮や人的サポートの希薄さによる利用者のモチベーション維持の困難さといった課題が示された。一方で、本研究のレビュー対象論文からは、ペルーの児童養護施設退所者の現状に関する実態調査は見当たらなかった。今後、ペルーで自立支援が検討される際、児童の施設退所後を見据えた支援のためには、社会的養護経験者から見た自立や自立支援の検証が必要であると考えられる。

3. 本研究の限界と今後の展望

本研究の限界として、Fourment et al. (2022) が述べている通り、ラテンアメリカ地域で行われている研究は、スペイン語またはポルトガル語でのみ出版されることが多く、国際的な研究コミュニティには届いていない可能性があるため、文献の網羅が十分でないことが挙げられる。また、宗教観や文化的背景、施設の社会的な位置づけを含んだ地域性については、本研究で十分に検討することができておらず、今後の課題と考えられる。

本研究の結果から、ペルーにおいて児童養護施設に入所する児童は、施設職員等からの肯定的な関わりから自己肯定感を回復し、社会規範や学習意欲、援助要請を求める能力を養っていくことが示された。一方、退所後を見据えた支援においては、当事者のモチベーション維持の困難さ等の要因から、支援の利用に至らない場合や中断する場合も多く、課題となっている。しかし、本研究のレビュー対象論文の選定の中でもペルーの児童養護施設退所者を対象とした研究は少なかったことから、十分な検討が行われていないことが示された。今後その実態を把握するとともに、入所中のケアを受けた子どもの心理的变化が退所後の生活にどのように関連するか追跡的な検討を行い、また退所者を孤立させないための心理支援・社会支援のあり方について研究を重ねる必要があると考えられる。

文献

- Alpaca-Rodriguez, R., & Mamani-Porras, M. L. (2017). *Impacto del uso de las redes sociales (Facebook, Twitter y Youtube) en la imagen corporativa de la Aldea Infantil Sagrada Familia, Arequipa durante el primer semestre del año 2017*. (Unpublished bachelor thesis) Universidad Nacional de San Agustín, Arequipa.
- Alvarado-Espinoza, P., & Espinoza-Mallque, K. B. (2013). *Habilidades sociales de las madres sustitutas de la Aldea Infantil El Rosario*. (Unpublished profesional thesis) Universidad Nacional del Centro del Perú, Huancayo.
- Ames, P., Anderson, J., Martin, A., Rodriguez, R., & Potts, A. (2018). The Multi-Country Study on the Drivers of Violence Affecting Children in Peru: The process and its outcomes. *Vulnerable Children and Youth Studies*, 13, 52-64.
- Aylas-Escurra, Y. P., Flores-Medrano, J. P., & Retamozo-Vila, K. L. (2018). Desarrollo psicomotor en niños albergados en Huancayo. *Repositorio Institucional Continental*. Retrieved from <https://hdl.handle.net/20.500.12394/9759> (July 28, 2022)
- Aznarán-Barrantes, C. M., & Casimiro-Avila, J. K. (2021). *Recuperación y nueva infraestructura de la aldea infantil Señor de la Soledad en Ancash sierra*. (Unpublished bachelor thesis) Universidad Privada Antenor Orrego, Trujillo.
- Carcelén-Velarde, M. C., & Martínez, P. (2008). *Perspectiva temporal futura en adolescentes institucionalizados*. *Revista de Psicología*, 26(2), 255-276.
- Chilimaza-Morales, D. F., & Coronado-Gamarra, R. C. (2019). *La inserción laboral de jóvenes institucionalizadas del centro de atención Residencial Ermelinda Carrera en el marco del proyecto "Pan de Vida" ejecutado por Ai.Bi. Associazione Amici dei Bambini y financiado por el Fondo Ítalo-Peruano durante los años 2014-2016*. (Unpublished masters thesis) Pontificia Universidad Católica del Perú, Lima.
- Chire-Flores, J. E., & Cruz-Cruz, M. E. (2019). *Efectos de la institucionalización en el desarrollo psicológico en adolescentes del CAR Sor Ana*. (Unpublished profesional thesis) Universidad Nacional de San Agustín, Arequipa.
- Cóndor-Vilcapoma, M. A., & Sosa-Arroyo, J. C. (2017). *Niños, niñas y adolescentes víctimas de abandono: una mirada desde el centro de atención residencial Andrés Avelino Cáceres, distrito de El Tambo, 2015-2016*. (Unpublished bachelor thesis) Universidad Nacional del Centro del Perú, Huancayo.
- Condori-Olivera, N. H. (2017). *Albergue para el menor en abandono - Azángaro*. (Unpublished bachelor thesis) Universidad Nacional del Altiplano, Puno.
- Desmond, C., Watt, K., Saha, A., Huang, J., & Lu, C. (2020). Prevalence and number of children living in institutional care: global, regional, and country estimates. *Lancet Child Adolesc Health*, 4(5), 370-377.
- Espinoza-Oscanoa, L. V. (2018). *Acceso a la educación superior de poblaciones vulnerables: el caso Beca 18, modalidad albergues del*

- PRONABEC; Perú, 2012–2016. (Unpublished masters thesis) Pontificia Universidad Católica del Perú.
- Fourment, K., Espinoza, C., Ribeiro, A. C.L., & Mesman, J. (2022). Latin American Attachment studies: A narrative review. *Infant Mental Health*, 43(4), 653-676.
- 外務省 (2021). 児童の権利に関する条約. <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jido/> (2022年8月1日取得)
- 外務省 (2022). ペルー共和国. <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/peru/data.htm> (2022年7月28日取得)
- Gamarra-Quiroz, P. M. (2020). *Cuidado de las madres sustitutas a los adolescentes albergados en un centro de atención residencial-Chiclayo*, 2018. (Unpublished masters thesis) Universidad Católica Santo Toribio de Mogrovejo, Chiclayo.
- Gonzalez-Diaz, C. M. (2014). *Influencia de las relaciones de convivencia materno filial institucionalizadas en el desarrollo integral de los niños, niñas y adolescentes, albergados en las casa hogar de la aldea infantil “señor de la soledad”. Distrito de independencia, provincia de huaraz, año 2013*. (Unpublished profesional thesis) Universidad Nacional de Trujillo, Trujillo.
- gop.pe (2016). *Decreto Legislativo N° 1297. Gop.pe*. Retrieved from <https://www.gob.pe/institucion/mimp/normas-legales/2015609-1297> (July 28, 2022)
- Guerrero-Ramirez, L. V. (2018). *Mejoramiento en la calidad de los servicios educativos en la Aldea Infantil Virgen de la paz para la continuidad de la formación técnico y el buen desempeño frente a las oportunidad laborales al salir*. 39-40. (Unpublished profesional thesis) Universidad Señor de Sipán, Pimentel.
- Henriquez-Infantes, N. I. (2013). *Influencia del abandono familiar en el comportamiento agresivo de las niñas y niños de la aldea infantil de quirihua - distrito de laredo*. (Unpublished profesional tesis) Universidad Nacional de Trujillo, Trujillo.
- Herrera-Campoblanco, J. F. (2018). *Políticas públicas de protección de niños en estado de abandono: Perú 1990- 2015*. (Unpublished masters thesis) Universidad César Vallejo, Lima.
- Hidago-Soria, A. J. (2017). *Depresión en adolescentes institucionalizados en centros de atención residencial*. (Unpublished profesional thesis) Universidad Científica del Perú, Iquitos.
- Huamani-Bendezu, S. C. (2015). *El bullying como expresión de la violencia entre los infantes del albergue Domingo Savio - Coto Coto - Distrito de Chilca*. (Unpublished profesional thesis) Universidad Nacional del Centro del Perú, Huancayo.
- Huamani-Juño, V. Z., & Untiveros-Lazo, C. R. (2010). *Valoración afectiva: el sentido de familia en los niños institucionalizados de Aldea Infantil “El Rosario”, Huancayo periodo 2008-2009*. (Unpublished bachelor thesis) Universidad de Centro del Perú, Huancayo.
- Kirk, A. R., Groark, C. J. & McCall, R. B. (2017). Institutional Care Environments for Infants and Young Children in Latin America and the Caribbean. *Child Maltreatment in Residential Care*, 401-418.
- 国連 (2009). 総会採択決議: 64/142. 児童の代替的養護に関する指針 (厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課仮訳) 資料8. <https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r98520000018h6g-att/2r98520000018hly.pdf> (2022年7月28日取得)
- Landivar-Yacila, H. B., & Rivera-Ticona, A. N. (2021). *La influencia del confort espacial en las actividades recreativas del niño en la Aldea Infantil Señor de la Soledad, Huaraz 2021*. (Unpublished profesional thesis) Universidad César Vallejo, Lima.
- Madera-Flórez, J. (2021). *El derecho a vivir en familia y los centros de acogida residencial en Villa El Salvador*. (Unpublished profesional thesis) Universidad César Vallejo, Lima.
- Mainza-Herrera, M. P., & Zapata-Namuche, Y. V. (2019). *Comunicación y padrino para niños con problemas neurológicos y multidiscapacidad en estado de abandono en el Centro de Acogida Residencial Esperanza - INABIF 2019*. (Unpublished bachelor thesis) Universidad Tecnológica del Perú, Lima.
- Mamani-Condori, I. (2021). *Inteligencia emocional y resiliencia en jóvenes sin cuidados parentales, usuarios de centros de acogimiento, Perú 2021*. (Unpublished profesional thesis) Universidad César Vallejo, Lima.
- Morelato, G. (2011). *Resiliencia en el maltrato infantil; aportes para la comprensión de factores desde un modelo ecológico*. *Revista de Psicología*, 29(2), 203-224.
- Naciones Unidas (2010). *Resolución aprobada por la Asamblea General: 64/142. Directrices sobre las modalidades alternativas de cuidado de los niños*. Retrieved from <https://www.directricescuidadoalternativo.org/Portals/46/Guidelines/English/Spanish%20UN%20Guidelines.pdf> (July 28, 2022)
- Nina-Ramos, Q. J. (2015). *Motivación escolar en los niños y adolescentes de 1 o a 18 años de la aldea infantil el rosario palian-Huancayo 2014*. (Unpublished profesional thesis) Universidad Nacional del Centro del Perú, Huancayo.
- 沖田 勇帆・廣瀬 卓哉・長 志保・高瀬 駿・岸 優斗 (2021). JBI Manual For Evidence Synthesis: Scoping Reviews 2020. スコーピングレビューのための最新版ガイドライン: 日本語訳. 日本臨床作業療法研究, 8, 37-42.
- Obregón-Alejos, A. J. (2019). *Realidad socio jurídica y el interés superior de los niños de los adolescentes en los albergues de la ciudad de Puerto Maldonado en el año 2019*. (Unpublished bachelor thesis) Universidad Andina del Cusco, Puerto Maldonado.
- Ortúzar, H., Oriol, X., Miranda, R., & Montserrat, C. (2021). Teacher violence, school satisfaction and subjective well-being in children and adolescents in residential care: The moderation effect of staff support. *Children & Society*, 35(6), 850-869.
- Oviedo-Ortiz, F. X., & Vargas-Chunga, P. N. (2021). *Centro de Atención Residencial para Niñas y Adolescentes en Estado de Violencia en la Región Piura, 2021*. (Unpublished profesional thesis) Universidad privada Antenor Orrego, Trujillo.
- Peters, M. D. J., Godfrey, C., McInerney, P., Baldini-Soares, C., Khalil, H., & Parker, D. (2017). Chapter 11: scoping reviews. *Joanna Briggs Institute Reviewer's Manual*. The Joanna Briggs Institute Reviewer's Manual. Adelaide, Australia: Joanna Briggs Inst; 2017. Retrieved from <https://reviewersmanual.joannabriggs.org/> (July 28, 2022)
- Ramirez-Castillo, K. V. (2022). *Propuesta de intervención para desarrollar la resiliencia en adolescentes de un Centro de Acogida Residencial (CAR) de Nuevo Chimbote - 2021*. (Unpublished masters thesis) Universidad César Vallejo, Chimbote.
- Rebaza-Diaz, A. D. (2020). *Apego emocional en adolescentes en estado de abandono material y/o moral: Revisión sistemática de los años 2015 al 2020*. (Unpublished bachelor thesis) Universidad Privada del Norte, Cajamarca.
- Rios-Sotil, R. R. (2020). *El abandono infantil y los servicios sociales en la Beneficencia Pública de la ciudad de Huánuco en el año 2018*. (Unpublished bachelor thesis) Universidad Nacional Hermilio Valdizán.
- Shisco-Calvo, R. J. (2014). *Soporte social en adolescentes institucionalizados en comparación con adolescentes no institucionalizados*. (Unpublished bachelor thesis) Pontificia Universidad Católica del Perú, Lima.
- Simbrón-Mendoza, E. N. (2019). *Adaptación conductual en adolescentes institucionalizados por estado de abandono en un centro de acogida residencial de Lima Metropolitana*. (Unpublished profesional thesis) Universidad san Ignacio de Loyola, Lima.
- Silva-Herrera, C. A. (2020). *Principio biofilico de la naturaleza en el espacio para el diseño de un centro de refugio para niños abandonados en El Porvenir*. (Unpublished profesional thesis) Universidad Privada del Norte, Trujillo.
- Suárez-Rodas, M. A. (2015). *Influencia de la adaptación social del menor en el proceso del acogimiento familiar del centro de atención residencial “San Jose”, INABIF - Trujillo: 2015*. (Unpublished profesional thesis) Universidad Nacional de Trujillo, Trujillo.
- Tejada-Tavera, K. C. (2022). *Aplicación de democracia digital para el reconocimiento de deberes y derechos en los niños y adolescentes de la*

- Aldea Infantil Virgen Del Pilar – Morales.* (Unpublished bachelor thesis) Universidad Nacional de San Martín, Tarapoto.
- UNICEF (2021). *NIÑAS, NIÑOS Y ADOLESCENTES EN EL PERÚ: Análisis de su situación al 2020 Resumen Ejecutivo.* 50-66. Retrieved from <https://www.unicef.org/peru/media/12141/file/Resumen%20Ejecutivo:%20Situaci%C3%B3n%20de%20ni%C3%B1as,%20ni%C3%B1os%20y%20adolescentes%20en%20el%20Per%C3%BA%20.pdf> (July 28, 2022)
- United Nations (2009). Resolution adopted by the General Assembly: 64/142. Guidelines for the Alternative Care of Children. Retrieved from <https://www.directricescuidadoalternativo.org/Portals/46/Guidelines/English/English%20UN%20Guidelines.pdf> (July 28, 2022)
- 宇佐見 耕一 (2020). 新世界の社会福祉 第10巻 中南米. 旬報社, 13-26, 100-124.
- Villanueva-Alvarado, M. A. (2017). *Situación del albergamiento de adolescentes en el Centro de Atención Residencial “San Francisco de Asís”* 2014. (Unpublished masters thesis) Escuela de posgrado Universidad, César Vallejo.
- Yshikawa-Merma, Y. A. (2018). *Factores de riesgo psicosociales y conducta agresiva en adolescentes que se encuentran albergados en la aldea Juan Pablo II de la ciudad del Cusco 2017.* (Unpublished profesional thesis) Universidad Alas Peruanas, Cusco.
- Zamalloa-Cusihuaman, E. (2019). *Inestabilidad emocional en niños y adolescentes que ingresan al centro de atención residencial (car) casa del águila del distrito de Limatambo provincia de Anta, Cusco-2018.* (Unpublished profesional thesis) Universidad Inca Garcilaso de la Vega, Lima.
- Zapata-Pratto, D. A. (2015). *Maltrato físico y desarrollo de trastorno disocial (personalidad rebelde) en adolescentes institucionalizados y no institucionalizados en Lima.* (Unpublished bachelor thesis) Universidad Femenina del Sagrado Corazón, Lima.

A review of Children's Care Homes in Peru and Challenges in the Self-reliance Support

Sakura IWASE

Graduate school of Human-Environment Studies, Kyushu University

Eiji OZAWA

Faculty of Human-Environment Studies, Kyushu University

The purpose of this study was to review the current standard of children's homes in Peru and to consider the challenges in the Self-reliance Support. By scoping review, 73 studies were yielded, and we summarized the theme. The main themes were “Understanding the psychosocial characteristics of children residing in institutions,” “Functions and roles of supporters inside and outside institutions,” “Support for children after leaving institutions,” “Family support and community approach,” “Use of social resources,” “Architecture and design of institutions,” and “Understanding the awareness and actual conditions of institutional staff”. It was also found that the frontline facility staff are involved in various ways with a view toward Self-reliance Support for the children. However, it was examined that the challenges in Self-reliance Support in Peru mainly include difficulties in effectively using vocational training programs and state scholarships and maintaining users' motivation, lack of information on the actual conditions of those who have left the institutions, and lack of support after leaving the institutions.

Keywords: Children's homes, Support for after care, Peru